
この世界

猿飛 佐助

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

この世界

【Nコード】

N8082N

【作者名】

猿飛 佐助

【あらすじ】

この小説はちかのアシスタントである『猿飛 佐助』が書いた、一冊のノートから生まれた、人々が抱いたかもしれない疑問を少年 けいとが解いていく物語。この世界から生まれた疑問は、きつと底を尽きないだろうけど、それでも、解いていきたい。 1つ1つ

プロローグ “残酷” (前書き)

疑問はきつと底尽きない。

でも、解けるなら解いてみたいと、

思いませんか？

プロローグ “残酷”

人々は問う 人々は言う

「何でこんなことをした？」と

人々は答える

「誰でもよかった」と

人々は言う

「そんなことをする人ではなかった」と

この世界で心に“闇”を持たない人はいない

だれしも持つている“闇”例えばその“闇”が『いじめ』や『万引きなどの犯罪』、『暴力』、『殺人』などにつながる。

人は残酷だ。だってそうじゃん“死刑”というモノがこの世にはある。

『射殺』、『首吊り』そんなものばかり 日本では『首吊り』の“死刑”だろう

とゆうよりそれしか知らない、聞いたことがない

その“死刑”を見る人々は何と思うのだろうか？人が死ぬのを心では笑っているのだろうか？

俺は笑っていると思う

(バカな人)

などと笑っているのだと思う でも、この世に“死”は必要なのだろうか？

というよりも“死刑”、“他殺”はいるのか？ちがう。

“刑”は“刑”であり“他”は“他”だ、しよせん。

俺の考え？そんなもん決まってるでしょーよ。

“自由に生きて好きな人と過ごして幸せな生活の中で生きる。そしてやりたいこといっぱいやってもらうことないやってころには死ぬ”それが一番だと思う。でも幸せなんてない、自由なんてない人々はいつものナニカに縛られる 必ず縛られるもの『規則』、『法

律』、『マナー』

こんなものばかり 自由に生きたいのに生きられない。それが人間
というもの

これはそんなことを思う1人の少年の物語

プロローグ 完

プロローグ “残酷” (後書き)

どうでしたか？これが佐助の頭の中。深く考えすぎてしまっけど、でも、いい話だと、私、ちかは思います。

感想・指摘、お待ちしております。

〈次回〉

『人々』

1章 “人々”（前書き）

本日二回目の投稿となります。

今回は人々が自由になれる時は何時なのか。という疑問を解いていきますように

1章 “人々”

人々は生まれ、“名”を与えられる。いわゆる“命名”
人々は成長し“場”を与えられる。いわゆる“学校など”
人々は大人になり“職”を与えられる。いわゆる“会社”
人々が苦しむことになる病。それも与えられる。いわゆる“病気”
人々は暗闇に入る。目の前に黒が広がる。いわゆる“永眠”
それが、その人生が人々はちがう。すぐ死を迎えるものもあれば長いものもいる。
差別だ。ひどすぎる。でも人は永眠した時1番いい笑い顔をしている。

生きているのではないか？と思うほどに

「おーけいとおー」

「・・・・・・・・・・」

「けいとつてばあー」

「・・・・・・・・・・」

「おい！」

「！あつ竜也」

「また考え事か？」

「なあ竜也。神はひどいよね・・・・・・・・」

「は？」

少年 けいとは思う。神はひどいと。神は人々に人々の生命を与える。じゃあなぜ、0才死ぬ子もいるの？それこそひどいと感じる理由、つまり“地球温暖化”っていうのも神のしわざだと思うということ。

紙の気まぐれで“地球は滅ぶ”“人々は死んでいく”などということ。

じゃあ本当にそれだけ？いや、ちがう。中にはいいヤツだっている。そんなことは自分で判断できる。それが出来なきゃバカだ。

人々が自由になるのはいつ？そんなことを問いかけた。ある時答えた人がいた。“自分自身” 幽体離脱したわけではない。ただ、“自分の好きなことをしている時” という答えを自分が自分で出しただけのこと。でも少年は“他の誰か” と話した気分になった。

また1つ少年の“疑問” が解かれた。

人々はそれを“解決” という。人々が抱いた“疑問” を解く。それが全てを知り、予知できる神の役目ではないのか？

でも少年は神をひどいモノだと考え続ける

毎日毎日

1章 完

1章 “人々”（後書き）

疑問は解けましたか？

この答えは正解じゃないと思うかもしれませんが、でも、正解なんてないんでしょうね。

〜次回〜

『神』

2章 “神”（前書き）

前回の“人々”にて出てきた神。今回はこれが話しのテーマです。佐助は深く考える性格ゆえに、話しがずれるかもしれないませんが、温かい目で見てやってください！お願いします！

では、『第2章 “神”』を、どうぞ。

byちか

2章 “神”

神、あなたは神がいると思いませんか？それをあなたは信じますか？そんなこと言われてもしらねーよと思ってる人、ちゃんと答えるよふざけねーですよ

神がいたとして、また神だとして、神は何をするの？

答えを出せと言われたらすぐ出るか？出ないでしょうよ。

でも、神がすべて良いモノではないということ、すべてを信じてはいけないこと、しっていますか？

この世は、神の気まぐれで動く。時には良い方に。

時には悪い方に。

良い方は、何か起きたとき、1人も死人が出なかった時と
考えて下さい

悪い方は、何か起きたとき、世界が、この世が無くなると
考えて下さい。

こういつ神の気まぐれによりこの世は縛られている。

こう考えると自由って無いでしょう？

そう

思いませんか？

本当に神はいるのか？俺は考えたけど答えは出なかった。

だってそんな事“神以外誰モ知ラナイカラ”

自分の心が読まれるとき皆驚くよな？

それと同じなんだよ。だから

“何で心を読まれたの？”と思うだろ？

それと読まれたとき、自分の頭は真っ白に近くなる

違うか？

初めのと少し・いやかなりズレたかもしれないけど
つまりは、なんか聞かれてすぐ答える人と答えない人との差はあ
まりにも大きすぎるということ。

あなた達は、すぐ質問をされた時、
すぐに分かりやすいように答えることができ
ますか？

1つ言っておくけど
俺にはできない

2章 完

2章 “神”（後書き）

どうでしたか？感想をユーザー以外の人からもできるようにしたので、感想をよろしくお願いします！

さて、私は神を信じています。キリスト教、仏教問わず、知っている神は全て。

でも、『それはどうして？』と聞かれたら、私はすぐに答えることができません。

私は『すぐに答えられない人』側なのです。

なんていったらいいのかわからないんですけど、神を信じている。

……なんででしょうね？

神は、人の気持ちすらコントロールしてしまうのでしょうか？

それだとしたら………悲しいですね。

この世界は………“残酷”なのだから………。

少し長くなってしまいましたがここで終わりにします。ではまた次回。

byちか

〜次回〜

『自由』

3章 “自由”（前書き）

この小説を読んでいただきありがとうございます。

1つ言い忘れていたのですが、この小説は、元を佐助が作り、それを投稿しているのが私、ちかです。……関係ないですが。

では、『3章 “自由”』をどうぞ

3章 “自由”

自由になった事、あなたにはありますか？

あると答えた人、あんたはバカだ

あると答えた人に言うけど、ある人が言った台詞だがな、こんなのがあるんだよ。

“この世界に自由などない”

“楽園など自由など、何処にも無かったんだよ。全ては始まる前に終わっていたんだ”

ここから出せる答え、自由は無い（キツパリ）

だから何？じゃあないって答えた人

あんたは正常だ

この世は“縛られている”

政治なら、“カネ”とかそのへん

全体なら、“温暖化”とかそのへん

なら人は？“きまり”に縛られる

今も人は、縛られ続ける

自由な人にはなれない

そのへんで“自由つてすてき フリーダーム”とか言うてるヤツはいないか？

いたらこう言うんだ。

“自由？バカげたことぬかしやがって。自由なんざねーんだよ！”

つてな

ほら、今また世界が動いてまた1つ自由が
なくなった

(ふーん自由は無いのか)

また1つけいとこの思いが消えた。

3章 完

3章 “自由”（後書き）

はいどーも。再びちかです。

佐助佐助、この

“自由つてすてき フリーダーム！”

つてお前が叫んでる（？）ことじゃねーか！！思いつきり自分で自分のこと否定しやがった！

………いない相手にツツコンでも仕方ねーな。

………あーごほんごほんつい素が。

それではまた次回。私のほかの作品も宜しくお願いします！

（次回予告）

『ぐち』

4章 “ぐち” (前書き)

な……何ということでしょう!!

佐助がノートに第15章ぐらいまで書いてきてしまいました……!!

しかも最終章も書いてしまい……。

私はどうしたらいいんだー!!他にもたまっている小説があるというのに……!!

まあそんな私情は置いといて、

『4章 “ぐち”』をどうぞ。

4章 “ぐち”

文句って先生とかに言いたかったりするときにない？

なんで？あんたがまちがってんじやん！とか思うよね。たまに（笑）でも言えない。それがそれが事実って言ったらまた面倒なことになる。

さあこまったこまった。でも言ってもいいときあんじやないの？たとえばこつちがちゃんとやってんのにやれって言われる。こつち言えばいいのさ。

“ふざけんなよ・・・ならテメーらもやってみやがれ！どれだけ大変か俺の苦しみを味わってみやがれ！・・・それとも何？拷問がい？1つ、ジャンプの角あて 2つ、SQジャンプの角10コあて 3つ、サンデー、マガジン、ジャンプ1年分。計3年分上から落ちてくる”

どれがいい？とかつて。

ああ。そうかコレは俺用だね。じゃあ

“まちがってんのは先生の方だ！かつてに伝統こわしていいんですか？”

とかつて言っただけ。そうすりゃいい

何もかもがあつてゐるわけではないこの世界は

間違いはかり。だから、なんていうの

“世界はデケエ間違ひ探し”

と思えばいいんじゃない？

その間違い、あんたには見つけられるかい？

俺は無理だ。

でも1人の人間の思いはそんなこともかわらず、

解決していく。

その代わりにまた1人2人と思いを持つものは増えてい

く。

それがこの世界だ

それが当然な

それがなきやいけない世界なんだと思うよ

俺は

4章 完

4章 “ぐち”（後書き）

話の構成がわかりにくくてすみません！！

コレは、たまには目上の人にも文句が言いたくなるよな。っていう話です。

ちなみに佐助は少年漫画が大好きです。はい。

つーか幼稚園のころから読んでるってどんだけですか。

誰か感想を！！感想が少ないんです！あと、誰かこの小説に評価を！！

↓次回予告↓

『信者』

5章 “信者”（前書き）

遅くなつてすみません!!

最近『消えない絆』（ノート）の方をずっと書いていたので……

っーか佐助怖いよ。体から『早く書け』オーラが出てるよ。

それと、神様を信じてる皆様は読まない方がいいかと思われますのであしからず。……あれ？それだとこの話を読んでくれる人メツチャ減らね？

5章 “信者”

この世には、神を信じる者、キリスト教などの宗教があり、それを信じる者を信者という。なんてバカバカしい話だろう。

神を信じても何の得も無いというのに。

ここだけの話し信者は気持ちが悪いと思う。だって

“ああ神よ”とか言ってるんだらう？（たぶん）

でもそう思う。

つまり答えを出すととなると難しいが、

信者というけどそれは気持ちの持ちようであって実際はどうなんだ？ということ。

ちなみに俺は信じていない。自分が不幸だから。小さいころから嫌な事ばかりで嫌で嫌で仕方が無い。

けれどそんなこと思ってたのに友達ができてみると
それでもない。俺はこう思う。

“自分だけが不幸じゃないんだ。皆同じなんだ”って。

神と信者。それはいつも1つ。神を信じる者、信じられる者。この2つが無いとこの世界は変わってしまうのかもしれない。それが神の与えたこの世界の“テスティー運命”なのかもしれない。この2つがあるから面白いんだと思う。

結論を言わせてもらおうとだな、

“1つの2つ。神を信じる者と、信じられる者の2つが無いと、

この世界は面白くない”

あなたは神を信じますか？それとも信じませんか？半信半疑ですか？

でも結果信じても信じなくても半分信じて半分疑っていて
もそれはあなたの答えです

けれどもこの2つが無ければ今の地球は無いということ言
えると思いますよ。

答えはいつも1つとは限らない。だから、

あなたの正しい答えを出してください。

そしてまた正しい答えを探したければまた旅に出てみてく
ださい

5章 完

5章 “信者”（後書き）

ごめんなさいごめんなさいごめんなさい！！
神様を信じてる皆さんごめんなさい！！

しかもところどころ文が繋がっていませんし……………。

だめだめですね……………。

それでは！私の他の作品もよろしくです！！

↓次回予告↓

『6章 “血”』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8082n/>

この世界

2011年10月7日15時27分発行